



安全性向上への取組

輸送の安全の確保に向けて、
継続した業務改善や研究開発に取り組んでいます。

お客様や社員との コミュニケーション

お客様や社員とのコミュニケーションを通じて、環境や業務の改善に取り組んでいます。

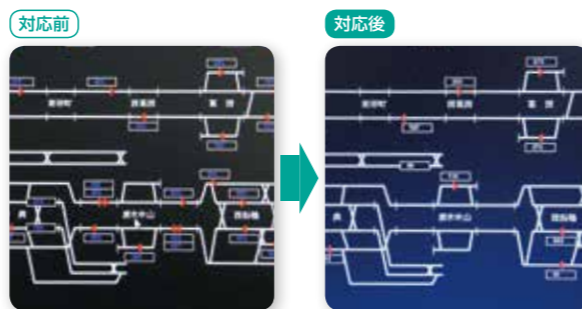
鉄道施設体験学習会

- 総合研修訓練センターにおいて、東京都立文京盲学校の生徒を招待し、鉄道施設体験学習会を行いました。視覚に障がいのある高校生が、鉄道施設について学べるよう、模擬ホームを活用し、様々な鉄道施設に実際に触れながら、点字ブロックからホーム端までの距離、ホームの高さ、非常停止ボタンを押した際の大きな音などを体験していただきました。



ヒヤリ・ハット活動による改善事例

- 駅にある運行情報モニタのバック画面が黒く、ダイヤ乱れの発生時には列車番号が濃い青色で表示されるため、視認性が悪いことから、車椅子ご利用のお客様のご利用列車確認を見間違ふおそれがありました。そこで、濃い青色から白色に変更することにより、表示の視認性を上げて確認しやすくしました。
- 大手町駅務管内で、ホーム列車監視業務中に再開扉釦と閉扉確認釦を押し間違ふことがありました。ワイヤレス戸閉合図器は押釦が色分けされていましたが、柱固定の戸閉合図器の押釦は同色であったことから、柱にもワイヤレス戸閉合図器と同様の色分けを行い、誤認しないようにしました。



安全の研究開発

さらなる安全を追求するため、継続して研究・試験に取り組んでいます。

車両走行安全性向上専門チーム

専門チームは、安全・技術部、車両部、工務部の3部門のメンバーから構成され、車輪とレール間の潤滑最適化、PQモニタリング台車や走行状態監視装置による営業中での連続的・恒常的な脱線係数監視、文献調査等の取組を進めるとともに、相互に技術的知見を蓄積・共有し、更なる新技術の開発を推進しています。



車両走行安全性向上専門チームの会議の様子

技術開発を促す取組

技術開発委員会を通じて、経営層が各技術開発案件の進捗状況及び課題を把握し、全社的に推進すべき案件の抽出や取組の強化を図り、企業価値向上を目指していきます。

具体的な取組の一例として、CBTC（無線式列車制御システム）技術の導入があります。無線を介して列車が情報通信することで、列車間隔をさらに短くすることができ、遅延回復効果があります。

今後は丸ノ内線新型車両導入に合わせ、本稼動に向けた準備を進めます。

- 技術開発委員会及び技術開発への取組体制

